

(16) 家 庭

1 設置科目及び履修要件

科目名	単位数	科目名	単位数
生活産業基礎	2～4	ファッションデザイン	2～16
課題研究	2～6	服飾手芸	2～6
生活産業情報	2～6	フードデザイン	2～8
消費生活	2～6	食文化	2～4
保育基礎 整理統合	2～6	調理	2～16
保育実践 整理統合	2～8	栄養	2～4
生活と福祉	2～6	食品	2～4
住生活デザイン（名称変更）	2～8	食品衛生	2～6
服飾文化	2～6	公衆衛生	2～6
ファッション造形基礎	2～8	総合調理実習 新設	2～6
ファッション造形	4～12		

2 教科の目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することをめざす。

→ **ここがポイント!**

- 生活産業における将来のスペシャリストに必要な資質能力を育成する視点を一層重視する。
- 職業人に求められるマネジメントの重要性に着目した指導の工夫を行う。

3 各科目の内容（主な変更点等）

生活産業基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに追加した項目「ライフスタイルの変化と生活産業」：社会の変化とライフスタイルの多様化に関する学習の充実。 ・ 新たに追加した項目「伝統産業」：現状と課題、今後の展望について明示。
保育基礎 保育実践	<p>【「子どもの発達と保育」・「子ども文化」を再構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「保育基礎」： 子どもの発達過程や生活の特徴を保育に関連付けて体系的に学ぶことで、子どもの姿全体を捉えられるように内容を充実。 ・ 「保育実践」： 「保育基礎」の発展として、子どもと触れ合うだけでなく、保護者支援の資質を養うことができるよう内容を充実。
生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たに認知症への理解を深めることを明示。 ・ 高齢者への生活支援サービスの実習として調理、被服管理、住環境の整備などの家事援助に加え、見守りや買い物を新たに追加。
住生活デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・ インテリアデザイン実習に関する内容の充実及び、福祉住環境の視点から、住空間のバリアフリー化、リフォーム計画実習等、新たに追加して改善。
フードデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時などの非常時を想定し、備蓄食の準備やそれを活用した調理ができるよう、災害時の食事計画についても新たに明示。
食文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「食文化と食育」という項目を新たに追加し、食文化の発展に食育が果たす役割を扱うことを明示するなど、食育の推進について充実。
総合調理実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調理師養成における大量調理やサービスに関する学習内容の充実。 新設

4 各科目の履修に関する配慮事項

- 原則として総授業時数の10分の5以上を実験・実習に配当すること。
- 家庭に関する各学科において、「生活産業基礎」及び「課題研究」は原則として履修すること。

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業の創造

「何ができるようになるか」 ～専門教科「家庭」において育成をめざす資質・能力～

知識・技術	・ 生活産業の各分野について体系的・系統的な理解及び関連する技術
思考力・判断力・表現力等	・ 生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力
学びに向かう力・人間性等	・ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築をめざして自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度

「何を学ぶか」 ～専門教科「家庭」において重視する学習内容・学習活動～

【学習内容の改善・充実を図った点】

少子高齢化，食育の推進や専門性の高い調理師養成，価値観やライフスタイルの多様化，複雑化する消費生活等の様々な課題に対応などを踏まえ，生活産業を通して，地域や社会の生活の質の向上を担う，多様な課題に対応できる職業人を育成するため，次のような改善・充実を図る。

- ・ 食育の推進等，食に関する学習
- ・ 子どもの発達や地域の子育て支援に関する学習
- ・ 高齢期の衣食住生活の質の向上を図る学習
- ・ 複雑化する経済社会や消費生活の理解に関する学習
- ・ 生活文化の伝承・創造に関する学習
- ・ 職業人としてのマネジメント能力の育成に関する学習

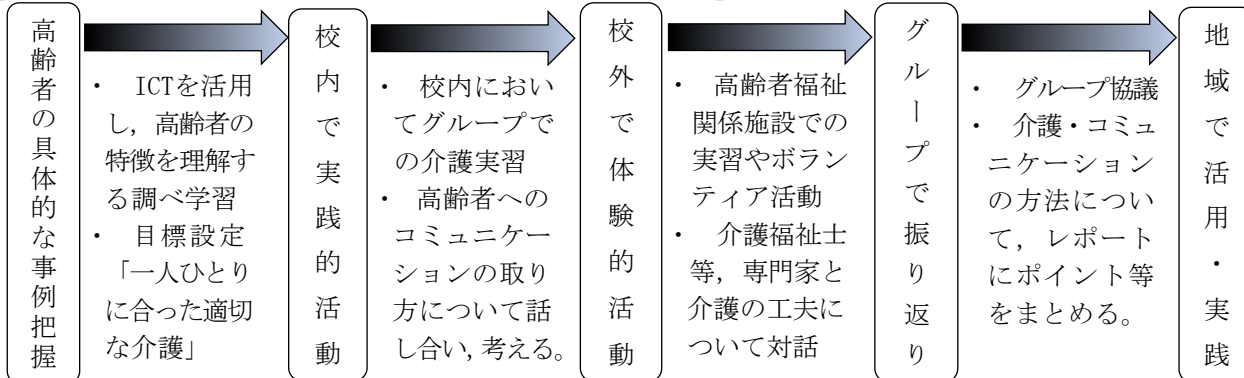
「家庭基礎」又は「家庭総合」で実践したホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動を発展させ，課題解決に取り組む。

《学習内容・学習活動を実施する上で重要なポイント》

- 単なる方法として技術を習得するのではなく，根底にある理論の理解。
- 自ら課題を発見し，解決の方策を探り，計画を立てて実践するという問題解決的な学習の実施。
- 物資やサービスを提供する側として，安全や衛生に配慮するなどの社会的責任があることへの理解。
- よりよい社会の構築に向け，広い視野をもち，新たな課題に多くの人と協力して挑戦する力の育成。

「どのように学ぶか」 ～主体的・対話的で深い学びの実現をめざして～

【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業実践の例】「生活支援サービスと介護の実習」



【授業改善の視点】

生徒が考えを伝えたり，話し合ったりすることで，思考が深まり，家庭や地域で高年齢者と関わる際に実践してみようと自覚できるような授業内容となっているか。